



苦小牧市文化団体協議会

はばたき

苦小牧市文化団体協議会

No.137

題字：大坪翠山 令和7年1月10日



苦小牧市文化団体協議会

会長 林 廣志

年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます

二〇二五年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ後の文化・芸術活動は、新たな課題に突き当たっています。それはコロナ禍の影響で組織の中心人物の活動量が著しく低下し、一部では中心人物の引退に伴い組織そのものが解散になってい

ます。それでも文化団体協議会の大きな課題としての次世代を担う人材の育成があります。昨年も言いましたが、年齢を重ねれば、眼はかすみ、耳は遠くなり、足腰を動かすには「よいしょ！」の掛け声が必要になります。だからといって年齢を言い訳にしてほしくないのです。多くの高齢な会員が持病で思うような活動ができないことを知っています。だからと言って諦めてはほしくないのです。

年齢など背番号みたいなものです。大谷選手は十七番、ジャッジー選手は九十九番です。文化活動に「定年」はありません。高齢を理由に第一線を退かれた方々は満足しているでしょうか。きっと少し寂しい気持ちと悔いが残っているのではないのでしょうか。それぞれの活動が老化防止となり、生きがいとなってきたはずで

す。最近、世代間のギャップも著しくなつてきています。若い世代は組織を嫌う傾向が強いですが、組織が自分の個性を失わせてしまわないかと恐れているようです。また発表の場もインターネットやユーチューブなどに変わり、そこで知り合った仲間たちとの交流という形態になつてきています。

個性があふれる時代、一人のリーダーに頼り過ぎる時代は終わり、互いにリスペクトしながら、支え合つて前に進む時代になったと思います。

そうした中で、我々に何ができるかを考えてほしいのです。活動の分野、活動のスタイルが違えば、対策も異なるものです。誰かが「こうすべき」と号令をかけて解決するものではありません。

ここで高齢者の出番です。年齢は過ぎ去って来た時間ではありません。今までの実績、経験、知識が必要になっていきます。

従来の枠組みを超えるアイデアを生み出す力に変えてほしいのです。文化を大切にすることは人生を大切にするということ、文化を楽しむことは人生を楽しむことにつながります。文化の大きな華を咲かせるために一緒に歩きたいと願っています。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年にあつたご決意を込め、ご挨拶といたします。

頌春

令和七年新年

副会長 長

監査 同

事務局長 同

理事 同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同





第76回 苫小牧市民文化祭

10月5日～11月23日



勇払地区文化祭



市民俳句大会



市民合唱祭



はすかつぶ演劇祭



樽前地区文化祭



市民短歌大会



沼ノ端地区文化祭



市民交流将棋大会



市民川柳大会



植苗地区文化祭



カルチャー&ミュージックフェス



音楽発表会



市民交流囲碁大会



市民参加演劇祭



市民吹奏楽祭



洋のステージ



市民文芸66号トークサロン



総合展示 発表会



表彰式



2024年(令和6年)11月27日(水曜日)

(第3種郵便物認可)

苦小牧民報

優れた作品の54人が受賞

苦小牧市民文化祭表彰式

第76回苦小牧市民文化祭(実行委員会主催)の表彰式が23日、市民会館で行われた。10月5日から今月17日までの約1カ月半、俳句や短歌、舞踊など同文化祭の行事で優れた作品を発表した市民に表彰状が贈られた。

された俳句6点に「ちよいと一句賞」が贈呈された。昨年からはまった「小中学生の作品展」では書道や絵画、工作で努力が認められた10作品が入賞した。

市長賞や教育長賞など計月26、27両日に市総合体育54人の受賞者を選出し、米館で行われた総合展示で、誉をたたえた。この他、10 来場者の投票によって選出し、「展示した作品を多く

の方にってもらえて光栄。これからも楽しみながら活動が続けたい」と謝辞を述べた。

林廣志実行委員長は「文化活動に年齢は関係ない。背番号だと思って今後も胸を張って取り組んでほしい」とエールを送った。



表彰状を受け取る受賞者



絵画



ちよいと一句

ちよいと一句 入選作品

冬枯の湖蒼々と 眠りけり
雑踏より逃げ来て 秋の湖畔佇つ
冬木立 水面の鳥の しじまかな

服部 洋子
渡邊 富子
山角 瑞希

写真



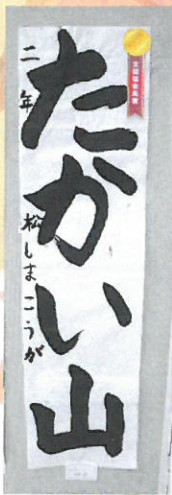
写真

「お背中を お流します」と 風呂の縁
極楽じゃ ああ極楽じゃ もっと右
親子猿 絆深むる 冬至風呂

原田 詢矢
中山真智子
櫻井 伸良

小中学生作品展

文団協会長賞作品



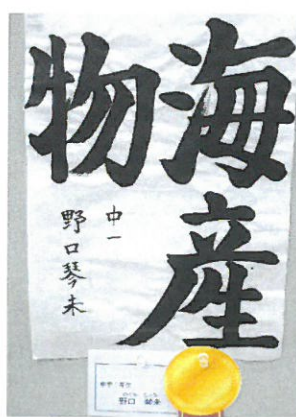
松嶋 洸芽



松嶋 琉華



松井 尊跳



野口 琴未



原 崇輔



本庄 煌夏



岸田 桜空



不川 裕理奈



若杉 妃慧



佐藤 想亮



ちよいと一句賞



小中学生作品展会長賞

第48回道民芸術祭

令和6年度第55回

胆振芸術祭 陶芸展

とき 令和6年9月20日(金)~22日(日)

ところ 苫小牧市文化交流センターギャラリー



第48回道民芸術祭 胆振芸術祭 陶芸展 55th 9月 20日~22日 入場無料

10:00~16:00 (最終日は午後3:00まで)

苫小牧市文化交流センター (アイビープラザ)

主催: 北海道文化団体協議会 共催: 胆振文化団体協議会、苫小牧市文化団体協議会 協賛: 北海道・苫小牧市・苫小牧市教育委員会



令和6年度苫小牧市文化賞表彰



令和6年度 苫小牧市文化賞に、文団協加盟団体の苫小牧書道連盟、大坪翠山氏が授賞されました。大坪氏は「はばたき」表紙の題字を書いていたでいております。誠にありがとうございました。

胆振文化団体交流会



今年度から2年間、胆振文化団体協議会の事務局となり、令和6年度の交流会を開催いたしました。

若年層参加へ意見交換 胆振文化団体協議会

胆振管内4市7町の文化 術祭について報告し、9月 県会連盟、協議会を組織 に写真展(報告)市民会館 する胆振文化団体協議会と陶芸展(苫小牧市文化文 (林廣志会長)の交流会が「流センター」を開催した。 日、苫小牧市役所で開か とや、1月にいふり文芸 各団体から27人が出席 第55集を刊行することを説 した。林会長は「各団体と 明、2025年度は自に も会員の高齢化の問題 苫小牧市文化会館で吹奏楽 を抱えている。共に打鍵 演奏会の開催も予定し、 文化活動の活性化案を模索 を見だしたい」とあいき ることを明らかにした。 取り組むについて意見を交 意図交換では「異なシ ン 回から26年3月開館予定 の苫小牧市民文化ホール」 の建設状況を視察、胆振書 事務局は今年度の道民芸 は」といった声も上がり、

市民文化ホールの説明を 聞く出席者ら 内の新たな文化拠点の誕生 に期待を寄せた。

文化基金へのご協力に感謝!

文化基金へのご協力、ありがとうございました。 会報136号以降のご寄付は下記の通りです。 (令和6年6月1日~令和7年1月5日)

記

- ◎苫小牧三曲会 10,000円
◎苫小牧西高等学校吹奏楽部 20,000円

編集後記

2025年の干支は、巳年です。 巳(み・へび)は、神様の使いとして大切にされてきた 動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルとも されており。 そのため乙巳(きのとみ)の年は、「再生や変化を繰り返 しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。 今年も、文化芸術に触れる機会を実現することにより、 市民の文化維持の衰退を止めるこ とを望んでいます。そして、会員 の皆様の健康で充実した活動が出 来ますことを願います。



文団協「はばたき」No.137

発行日/令和7年1月10日
発行所/苫小牧市旭町2丁目8番19号 文化会館内
苫小牧市文化団体協議会
発行者/会長 林 廣志
編集者/事務局長 松原 敏行

TEL・FAX (0144) 36-3491

E-mail : bundankyou.matsu@aioros.ocn.ne.jp

ホームページ : https://www.tomabundankyou.com/